

R5年度 学校評価書

令和6年3月27日

幼保連携型認定こども園
新聞杉の子幼稚園園長

学校評価委員長

井上 登美子

小池 小百合

1 本年度の重点目標

豊かな体験を通してたくましい子を育てる
・困ったことでも切り開ける子 ・何事でもチャレンジする子 ・遊びを楽しむ子

2 自己評価に対する学校関係者評価

※ A 十分成果があった B 成果があった C 少し成果があった D 成果は感じられなかった

評価対象	評価項目	具体的取組	自己評価	園としての改善策等	学校評価委員の意見	評価
子どもを愛し、護り育てる力	子どもの人権 愛されていると感じられる保育 健康で安全な園生活	子どもとの信頼関係を築き、健康で安全な園生活を送る	A	学年の話し合いをよくして、急な対応でも困らないようにしておく	感染症対策(園内園外バス内等)の強化、各クラスの状況(何組で何が出ているか)をより明確にしてほしい	B
子どもや同僚と共に育つ力	社会人・園の一員としての役割を持つ人間性豊かな保育者 自園の理念・方針の理解と実践をし、職場における同僚との連携 保育者の得意なこと、良さを自園の保育に生かし、保育の質を高める	園組織について理解し、同僚と連携しながら保育する	B	学年の話し合いをよくして、連携を取りながらお互いの良さを伸ばす	このままの対応でいく	A
幼児教育・保育理論を理解する力	幼児教育・保育の歴史や思想を知る 日本の幼児教育・保育制度を知る 幼児教育・保育を支える発達の理論を知る	認定こども園の目的・制度・乳幼児の発達について理解する	B	職員それぞれが意識を高め共有する	このままの対応でいく	A
子どもを理解する力	子どもの育ちと経験の理解 特別な支援を必要とする子どもの教育 乳児の発達と保育	乳幼児や特別な支援を必要とする子どもを理解し、子どもの目線で見つめる	B	全体を見ながら一人一人が責任を持ち健康と安心安全に努め子どもをしっかり見つめる	配慮が必要な子への園としての対応を多様性を持ち職員の研修参加等を増加強化すべきだと思う	C
保育を計画・実践し、評価改善する力	教育課程の編成と全体的な計画及び指導計画の作成 環境の構成と子どもへの指導援助 保育の振り返りと評価	環境や子どもの思いや遊びの状況を理解し、必要な指導援助をするための振り返りをする	B	日々の振り返りをして、記録に残しておき、指導援助に役立てる	このままの対応でいく	B
保護者や地域と連携したり支援したりする力	保護者と地域との連携をはかる 子育ての支援 社会資源	幼保小の連携や地域の施設、自然、人を知り学び親支援もする	B	地域に溶け込み積極的に学校や近隣へ出かけ、子や親の支援もする	このままの対応でいく	B

今後に向けての学校の考え(学校関係者評価を受けて)

感染症対策は、引き続き細かくやっていく。うがい、手洗い、換気、消毒等基本を忘れないようにやっていく。各クラスの発症状況は個人が特定しないように全体的なお知らせだったが、もう少し細かくクラス単位ごとのお知らせにする。配慮が必要な子が増えてきているので研修会への参加を増やしたり引き続きカウンセリングの先生の園訪問を行い、外部の専門の先生の意見を聞いて子どもの理解を深める。合わせて親支援も行っていく。